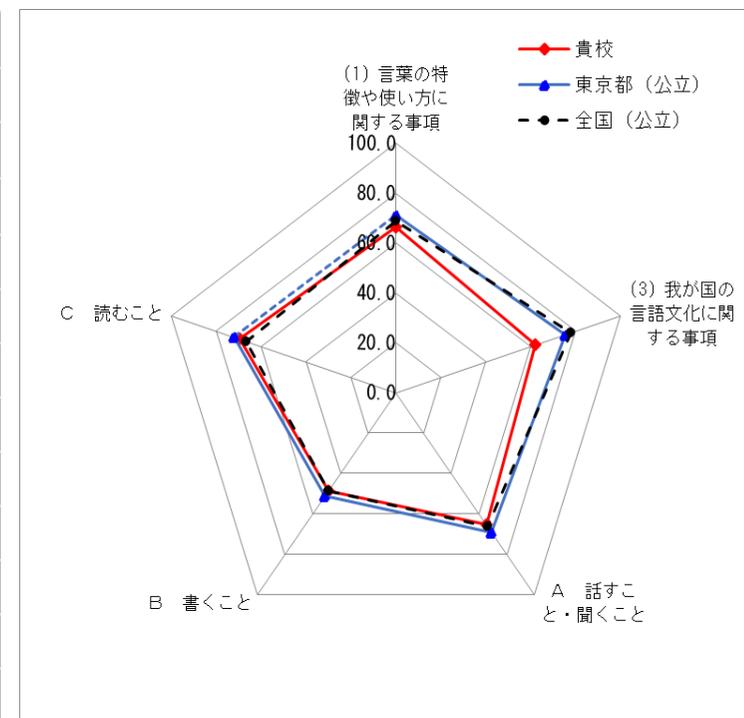


令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果及び分析・考察 【国語】

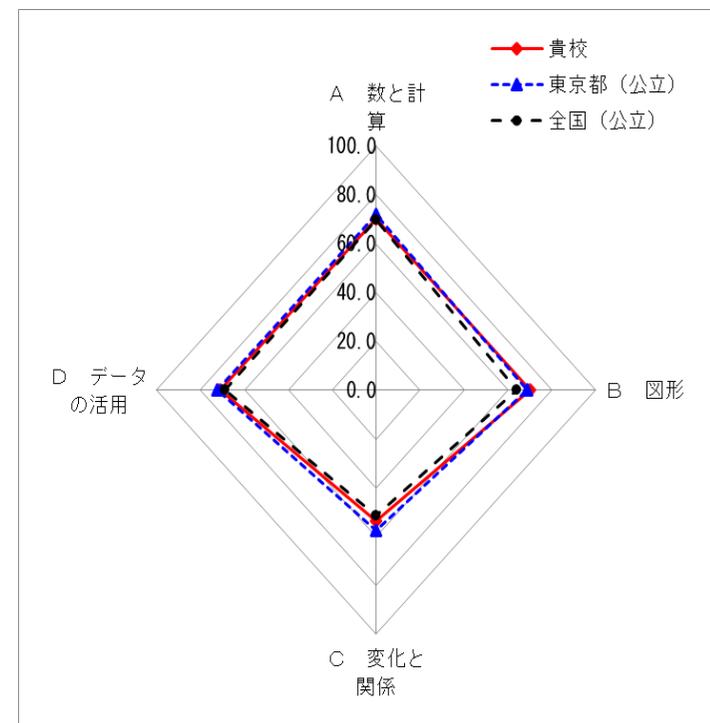
分類		区分	平均正答率(%)		
			本校	東京都	全国
		全体	64	69	65.6
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.4	71.4	69.0
		我が国の言語文化に関する事項	62.2	75.5	77.9
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.6	69.1	66.2
		B 書くこと	48.9	51.3	48.5
		C 読むこと	69.7	72.1	66.6
評価の観点	知識・技能	65.7	72.0	70.5	
	思考・判断・表現	63.5	66.2	62.0	
問題形式	選択式	71.5	75.3	71.8	
	短答式	58.5	65.7	63.6	
	記述式	51.5	53.9	51.3	



【考察】

- 全体の平均正答率は、全国から1.6ポイント、東京都から5ポイント下回っている。
- 「知識及び技能」における『我が国の言語文化に関する事項』では全国から約15ポイント下回っており、言語活動の充実を図るための授業の工夫を考えるとともに、児童へ言語についての興味関心をもたせられるような主体的な学習から、言語文化に関する知識・技能の向上をめざす。
- 「思考力・判断力・表現力等」における『読むこと』については、東京都より下回っているものの、全国平均より上回っている。思考力・判断力・表現力は、ほぼ全国平均であり、東京都の平均に近づけていけるよう、国語に限らず、各教科においてその力を促すための学習展開をめざす。

分類	区分	平均正答率(%)		
		貴校	東京都	全国
全体		66	67	63.2
学習指導要領の領域	数と計算	70.4	72.1	69.8
	図形	69.9	68.6	64.0
	変化と関係	53.4	57.6	51.3
	データの活用	71.2	72.4	68.7
評価の観点	知識・技能	70.5	72.4	68.2
	思考・判断・表現	60.0	60.5	56.7
問題形式	選択式	57.3	56.7	51.8
	短答式	77.0	80.6	76.5
	記述式	62.4	62.7	60.2

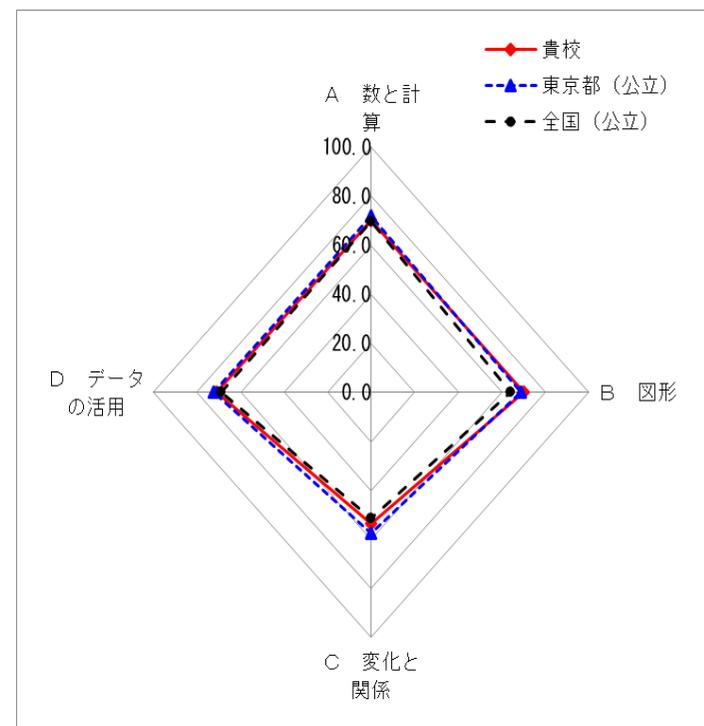


【考察】

- 全体の平均正答率は、全国から2.8ポイント上回り、東京都から1ポイント下回っている。
- 「学習指導要領の領域」の『A 数と計算』、『C 変化と関係』において、全国又は東京都の平均と比べて正答率が低い。数と計算では、乗法の積の見通しをもって解答する問題で誤答が多くあった。また、変化と関係では果汁の割合から果汁の量を求める問題で正答が少なかった。何を求める問題かを理解していけるよう、日常の授業から答えの見通しをもたせ、問題を図式化や数直線等を活用して解決するなどの取り組みが必要となってくる。
- 「思考・判断・表現」に関する正答率が全体的に低くなっているため、普段の学習から課題解決や問題解決の際に、自分の考えを書いたり伝えたりできるような指導を一層目指す。

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果及び分析・考察 【理科】

分類		区分	平均正答率(%)		
			貴校	東京都	全国
全体			62	65	63.3
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	50.3	53.4	51.6
		「粒子」を柱とする領域	60.9	62.4	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	72.0	77.4	75.0
		「地球」を柱とする領域	59.6	67.7	64.6
評価の観点		知識・技能	58.9	63.6	62.5
		思考・判断・表現	62.9	66.5	63.7
問題形式		選択式	65.1	69.4	66.8
		短答式	62.2	67.0	66.2
		記述式	47.8	49.6	47.3



【考察】

- 全体の平均正答率は、全国から1.3ポイント、東京都から3ポイント下回っている。
- 「学習指導要領の領域」において、『生命を柱とする領域』と『地球を柱とする領域』において全体的に低い。特に、地球を柱とする領域では、全国から5ポイント、東京都から約8ポイント下回っている。他の領域と比べ、実験等で実際に確認することが難しい領域であることや知識として習得する必要がある、二極化になりやすい。
- タブレット端末等を活用し、実際の様子に触れるなどの授業改善を図っている。知識・技能の向上を図りつつ、思考・判断・表現の力を伸ばすため、調べたことをまとめたり、伝え合ったりする学習を目指す。